

公表

事業所における自己評価総括表【児童発達支援】

| | | | |
|----------------|-------------------|--------|------------|
| ○事業所名 | 聖隷こども発達支援センターからみあ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年9月1日 | ～ | 2025年9月30日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) 51名 | (回答者数) | 50名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年9月1日 | ～ | 2025年9月30日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) 19名 | (回答者数) | 19名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年2月27日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 児童および保護者のニーズを丁寧に汲み取り、個別支援計画へ反映させている。また、計画に基づく支援にあたっては、多職種による専門的な視点を融合させ、多角的なアプローチを実践している。 | クラス職員、専門的支援担当、保育所等訪問支援員が連携したカンファレンスを実施し支援計画を作成している。また専門職による勉強会を定期的実施し、アセスメント能力の向上を図り、支援方法について考える力をチームで伸ばしている。 | 個別支援計画の作成において、より客観的な根拠に基づくアセスメントツールの導入や、AIアプリケーションの活用を検討する。あわせて、保育士と専門職が互いの専門性への理解を深めることで、児童にとって最適かつ多角的な支援方法を検討する体制を強化する。 |
| 2 | きょうだい児を含む家族や地域住民が参加可能な行事を年3回（防災フェスティバル・びゅあ祭り・ふれあい動物園）開催し、地域社会との交流を促進している。また、地域に向けた園庭開放を継続的に実施することで、早期相談の機会を創出し、身近な相談窓口としての機能を果たしている。 | びゅあセンターの取り組みを周知するため、磐田市をはじめとする関係機関や地域施設へチラシを配布し、広報活動を実施している。また、園庭開放時には専門職による相談会を併設し、参加した保護者が育児や発達の悩みを気軽に相談できる体制を整えている。 | 行事や園庭開放の際にはアンケート調査を実施し、地域住民のニーズを的確に把握することで、次の取り組みへ反映させる。また、新たな地域資源の発掘や企業との合同企画を検討し、支援の幅を広げる取り組みを模索することで、地域社会と持続的に共創できる体制の構築を目指す。 |
| 3 | 定期的に面談や保護者同士が交流する機会を創出し、子育てに関する不安の軽減や仲間作りのサポートをしている。 | 年間を通じてテーマ別のプチ座談会を継続開催し、保護者が自身の関心に沿って自由に参加できる環境を整えている。また、担任や児童発達支援管理責任者との定期的な面談を実施することで、家庭状況を細かく把握し、必要に応じて適切な社会資源や専門機関への橋渡しを行っている。 | 保護者アンケートの結果を受け止め、ニーズを汲み取った新たなテーマ設定での座談会を行う。また、保護者の抱える困難感に寄り添いつつ、からみあでの支援内容をご家庭でも実践（汎化）できるよう、具体的な関わり方や手法の共有に努める。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 防災訓練の実施や、近隣の園・法人内他施設との交流活動を継続しているが、保護者への情報共有が十分とは言えず、活動内容が伝わりにくい。 | 日々の活動をICTツール『コドモン』を通じてお伝えしているが、発信が時折に留まり、内容も簡略化され充実度にも課題を残している。また、対象クラス限定の配信に留まるケースが多く、全保護者に伝わりにくい傾向にある。 | 現在は写真中心の発信となっているが、今後は取り組みのねらいや背景など、詳細な説明を添えた内容へと充実を図る。また、新たな交流イベントを企画・実施することで、児童同士の幅広い交流機会を創出するとともに、保護者へ活動の意義を丁寧に伝え、積極的な参加を促す。 |
| 2 | 活動内容や利用人数に加え、放課後等デイサービスの長期休暇期間など、時間帯や時期によっては余剰の療育スペースの確保が物理的に難しい状況にある。また、びゅあセンター全体の共有駐車場を利用しているため、特定の日に於いて駐車台数が不足し、利用者の皆様にご不便をおかけしている面がある。 | 夏休み期間は放課後等デイサービスの利用により遊戯室の使用が制限され、余剰スペースの確保が課題となっている。また、近年の暑さ指数の上昇に伴い、夏季は屋外活動が制限される日が増加しており、室内での活動密度が高まりやすい状況にある。駐車場についても、就労支援の利用者や職員数の増加に伴い、駐車台数の不足が見られている。 | 放課後等デイサービスを含むびゅあセンター全体で「狭隘化（きょううあい化）対策会議」を定期開催し、既存の限られた空間を有効活用するための具体的なスペース創出策を検討している。また、駐車場の混雑時には安全運転管理者をはじめとする職員が交通誘導を行い、利用者の安全確保と事故防止に努めている。 |
| 3 | 毎年一定数の待機児童が発生しており、年度内にすべての待機を解消するには至っていないのが現状である。定期的な状況確認は継続しているものの、待機中のご家庭に対するフォロー体制については、十分と言えない課題が残っている。 | 個々の成長に合わせた発達段階別のクラス編成を基本としているため、クラス構成や年齢によっては欠員が生じにくい状況が継続している。特定学年が定員に達していることもあり、受け入れの余力は依然として乏しい。待機状況の確認は定期的に行っているが、現場職員の想いや支援の質を維持するための適正な環境づくりを優先しており、全待機者の早期解消には時間を要する課題が残っている。 | 定期的な待機状況を把握するとともに、在籍児の発達段階や利用頻度を精査し、クラス移行や利用日数の調整等を通じて受け入れ枠の創出を検討する。また、待機期間中であっても、園庭開放や地域行事への参加を積極的に促すことで、相談機能の維持とアフターフォローの充実に努め、待機児童への支援体制を強化する。 |